



<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>

第97号 (季刊)
平成23年 1月
田中野田町内会

新年ご挨拶



学校教育と家庭内コミュニケーション

田中野田町内会会長 和氣 健



あけましておめでとうございます。

皆様方にはご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。旧年中は町内会活動に対しまして絶大なご支援・ご協力をいただき心から感謝申し上げます。

昨年は、政治も経済も社会の混乱もひとかどでは無かったように思います。ノーベル化学賞の受賞などめでたい話題もありましたが、総じて暗いニュースが多かったように思います。今年こそは、いい年になればと心から願っているところです。

さて、戦後六十年余りに亘って、個人重視と自己中心の風潮が社会全体を覆ってきました。その結果、政治、経済、社会の全てにおいて、様々なひずみや混乱が生じてきているように感じられます。

最近の学校、特に一部中学生の傍若無人の有様を目にすると憂鬱になります。我が子が成長し、学校に足を運ぶ機会も遠のいており、見当違いもあるかも知れません。しかし、たまにしか行かないからこそ、変化を感じる事もあるのではないかと思います。

先般、ある会合で話題がたまたま教育に関する事に転じたとき、それぞれが急に熱心に持論を述べられ場が盛り上がった事がありました。教育の現状を憂う声は大きく、教育行政と国民との乖離は大きいものがあると感じたのであります。

要は、あまりにも行き過ぎた個人主義に歯止めを掛けなければならない時期に来ているのではないかと。確かに、ひとり一人が人間として尊重されるべきであることは言うまでもありません。また、同時

に果たすべき義務、相手のことを重んじ、自分自身を省み、磨き高める等という部分についてはあまり教えてこなかったのではないかと言うことです。

また、家族間に会話がある時代は、「それは貴方が間違っている」と諫める人がおり、自分勝手は許されませんでした。ところが、テレビが普及し、母親が仕事を持つようになり、家庭から会話が消え、更に、携帯電話、電子ゲーム機、パソコンと人と人の直接的な対話を遠ざける傾向が益々増えて来ました。

個人重視の教育を行い続ける一方、家庭内でのコミュニケーション不足で、自分を諫めてくれる家族がいない。そんな中で育てば、人の気持ちや心の痛みが分かるはずがありません。自分のことしか考えられない子供達が増えるのは必然といえます。過度の個人主義教育の見直しが当然に求められます。併せて、家庭での会話がないが故に、子供達がこうしたゲーム機などにのめり込むことが、どんなに危険であることかを認識する事も大切なことです。また、我々自身が、家庭内でのコミュニケーション不足に陥らないよう特別に配慮する事が求められているように思います。

新しい年が、家庭内コミュニケーションの深化や、学校教育の見直しが行われる第一歩となることを願いつつ、皆様方にとって幸多い年となりますようお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

